SFS通信

平成27年(2015)9月28日発行
日本ボーイスカウト新潟連盟
スカウトフェローシップ委員会
編集長　杉山　剛
〒959－2658胎内市西条602－11
TEL & FAX 0254－43－4879
事務局　〒951-8052　新潟市中央区下大川前通4の町
TEL 025-229-5454 FAX 025-229-5446

SFS委員会役員会議（9月13日）報告

カブ・ビーバーラリーが開催された鳥屋野潟公園（新潟市）で役員会を行いました。参加者は星、藤塚、杉山、齋藤、鈴木、佐藤、杉山（和）、高橋の合計8人。10月予定の全体会議について打ち合わせを行い、その後は9番目のコーナー担当として汗を流しました。

10月開催予定の全体集会について

平成27年10月14日（水）、15日（木）に　長岡市“東泉閣”で開催することに決まりました。
詳細は次頁の実施要項をご覧ください。

遠隔地に集まることがだんだんしんどくなってくるとの弱気の意見もありました。今回の長岡市は丁度県中央になりますので何とか皆様に集まっていただければと思います。

参加申し込みは各地区幹事でご連絡ください。お待ちしています。

第46回　新潟県カブラリー
第28回　新潟県ビーバーラリー

9月13日　鳥屋野潟公園で行われました。参加はビーバー62、カブ123、JL6、指導者49、合計266人。各地区共趣向を凝らしたコーナー（SFSを入れて計9ヶ所）を廻ったスカウトはいずれも楽しめた満足顔を見せてくれました。設営に尽力された指導者の方々有り難うございました。

コーナー設営途中、強烈な雨に見舞われ作業に支障が出ました。幸いにも勢いが弱くなり、行事は若干の遅れで開催されました。開会式前でのカブコール、ビーバーコールも前回と若干の修正を加えており、年々工夫の跡が見られ好感を持てました。

開会式前の　二重の大輪

23WSJ　・　英国スカウトホームステイ

7月26日新潟派遣団の壮行会と英国ハンバーサイド派遣団の歓迎式。（新潟市ホテルラングウッド）
26－28日40人が22ファミリィの下で二泊三日のホームステイ。それぞれの文化交流を楽しんだことと思います。

新潟派遣団（関川団長）は予定通り8月10日に全員元気に帰着しました。

参加指導者の皆様に感謝！！

現在、報告書作成中です。スカウトのレポートをみると、とにかく最高でしたの文字が躍っていました。楽しいものが出来上がると思います。

請う　ご期待！！

ハンバーサイド派遣団の皆さん

第10回 SFS委員会全体集会実施要項

三指　鬼怒川堤防決壊の文字から色々な思いが深く広く押し寄せてきます。すっかり秋の色が濃くなってまいりました。皆様にはお変わりありませんか？

今年の全体集会は中越地区が担当です。例年と少し趣向を変えて、長岡市内の各種施設を紹介しながら、見学することにいたしたいと存じます。新しい発見が沢山あると思います。是非多数の参加を期待いたします。

期日：平成27年10月14日（水）、15日（木）

宿泊：東泉閣　長岡市柏町2－3－11、　電話0258－35－2048

長岡駅より約700m、7階大展望風呂が有名、駐車場30台

参加費：1万円（宿泊懇親会8500円、施設見学費1500円）

日程：10月14日（水）13時　国営越後丘陵公園入口前集合　**希望者のみ**

広大な公園施設なので、ボーイスカウト活動にどのように活用できるか研究したい。

（65歳以上は入場料が割引になりますので、年齢が判る証明書をご持参ください。）

18時より東泉閣で（越後丘陵公園に参加されない方は、直接東泉閣においでください。）

SFS委員会総会

講演会「スカウティングと信仰」　杉山　剛氏（中条第1団、SFS副委員長）

懇親会

10月15日（木）　長岡市内の施設見学（参加者の希望により選択いたします。）

県立歴史博物館、県立近代美術館、馬高縄文館、山本五十六記念館、

河井継之助記念館、戦災資料記念館、駒形十吉記念美術館、

長岡藩主牧野家史料館、長岡市立科学博物館、長岡花火シアター、

長岡震災きおくみらい、摂田屋歴史地区探訪（旧三国海道、サフラン酒鏝絵）

参加申し込み：：10月3日（日）までに各地区の幹事役にご申込みください。

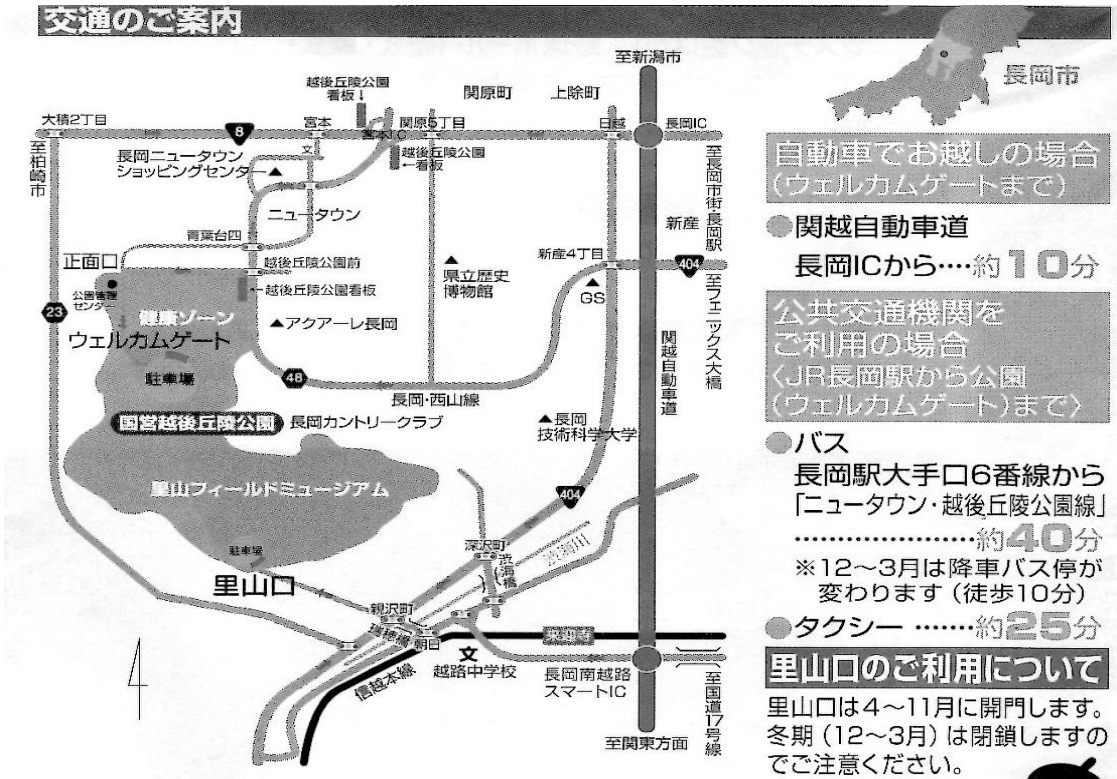
新潟地区	斉藤真憲氏	025－268－6033
下越地区	杉山　剛氏	0254－43－4879
中越地区	星　榮一氏	0258－33－9563
上越地区	大山恵右氏	025-553-1068

各地区の幹事さんは、下記の表で10月5日までに星榮一宅に FAX 0258-33-9563 に送信ください。

参加申込書　　**地区**

氏　　名	懇親会のみ	宿泊	越後丘陵公園	希望する市内施設	その他

長岡造形大学
金峰神社
JR長岡駅
長岡大橋
米百俵の群像
市民文化ホール
ハイブ長岡
県立近代美術館
国道8号線
長岡ジャンクション
国道8号線
日赤病院
山本記念公園
栄涼寺(河井継之助の墓)
至栃尾
ファミリードーム
NAGAOKA(仮)
NTT
長岡東バイパス
如是蔵博物館
市営陸上競技場
大手大橋
河川公園
平潟神社
大手通
ながおか
長岡インターチェンジ
大花火大会会場
長生橋
東泉閣
市立図書館
国道17号線
市営希望が丘プール・テニス場
新産業センター
千蔵院
至八方台
長岡市役所
長岡一の眺望 七階 超音波大展望風呂
天下の名湯
東泉閣
〒940-0088 新潟県長岡市柏町2丁目3番11号
TEL(0258)35-2046(代)
FAX(0258)35-2049
フリーダイヤル 0120-102635
トウセンカクフロサイコウ
■マイクロバスで送迎サービスいたします。
■マイカーでお越しの方には無料駐車場完備。


交通のご案内
至新潟市
長岡市
越後丘陵公園看板
関原町
上除町
大積2丁目
宮本
関原5丁目
日越
長岡IC
至柏崎市
長岡ニュータウンショッピングセンター
越後丘陵公園看板
至長岡市街 長岡駅
ニュータウン
新産
青葉台四
正面口
越後丘陵公園前
新産4丁目
県立歴史博物館
至フェニックス大橋
越後丘陵公園看板
GS
健康ゾーン
ウェルカムゲート
アクアーレ長岡
関越自動車道
駐車場
長岡・西山線
国営越後丘陵公園
長岡カントリークラブ
長岡技術科学大学
里山フィールドミュージアム
深沢町
信濃川
駐車場
里山口
親沢町
朝日
越路中学校
長岡南越路スマートIC
信越本線
至国道17号線
至関東方面
自動車でお越しの場合
(ウェルカムゲートまで)
●関越自動車道
長岡ICから…約10分
公共交通機関をご利用の場合
〈JR長岡駅から公園(ウェルカムゲート)まで〉
●バス
長岡駅大手口6番線から
「ニュータウン・越後丘陵公園線」
……約40分
※12～3月は降車バス停が変わります(徒歩10分)
●タクシー ……約25分
里山口のご利用について
里山口は4～11月に開門します。冬期(12～3月)は閉鎖しますのでご注意ください。
国営越後丘陵公園 国土交通省 国営越後丘陵公園事務所
お問い合せ 越後公園管理センター
〒940-2082 新潟県長岡市宮本東方町字三ツ又1950-1 TEL(0258)47-8001
FAX(0258)47-8002
〈URL〉http://echigo-park.jp/
〈携帯サイト〉http://echigo-park.jp/k/
〈ブログ〉http://echigo-park.info/
※ご案内の内容について予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。
H26.03.90,000

再考　私の”信仰奨励章”

SFS通信編集長　杉山　剛（中条1）

2015.10.14 SFS全体集会での討議用資料

スカウティングの基礎に宗教があるということは誰しも理解している。しかし、スカウティングの結果としての大切な指標であるはずの宗教章、信仰奨励章の取得がどの程度かということについてはほとんど注意がはらわれていない。

スカウト技能訓練やチームワーク、上下関係、規律などを重視したスカウト活動は勿論すばらしいものである。しかも共通した進歩プログラムをもち全国的に展開している活動は他にはない。しかし、スカウティングの基礎である宗教への認識の乏しいままでは我々の活動はまさに“画龍点睛を欠く”ということになる。何故なら井上理事長が良く言われる「Good　citizenを育てる」ためには心・技・体の心の育成にも注力しなければならないからである。勿論、技・体の活動を通して心の鍛錬がなされるのだが指導者の側に生死への確固たる信念がない場合には力強さに欠けてくる。確固たる信念を与えるものは宗教であるがため、日本のスカウト活動の弱点となっているのである。

現代の日本人は宗教から縁遠いとよく言われる。洗礼などの入信儀式が一般的でない仏教に関して言えば、自信をもって仏教徒と言う人は多くないと思う。しかし、日常生活に多くの宗教儀礼を取り入れている日本人は世界に類を見ない宗教人だとも言われている。つまり日本人は固有名詞の神仏に弱いが、決してノー天気に生きている訳ではないと言うことである。

その意味から、私たちはもっと自信をもって宗教章、信仰奨励章に取り組んでもよいのではないかということが今回の提案である。

はじめに、信仰奨励と言う言葉の定義と言うか意味するところを確認しておきたい。
教育規定の授与基準（別紙参照）を見る限りは、

宗教章：特定の宗教に対する深い理解を得,自身の生活の中で実践すること。（帰依することまでは求めていない）スカウト教育は宗教教育ではないので宗教家（教導職）にお願いすることになり、スカウト指導者の役目は宗教家との連携と日々の活動計画を工夫すること。

信仰奨励章：宗教章への前段階。敢えて言えば宗教的雰囲気の中での活動に参加すること。指導者の役割は日々の活動に信仰と言うキーワードを忘れないことと言える。このために指導者の役割は極めて大きい。

スカウトの活動として、信仰奨励章・・宗教章のステップを踏み、いつかの時点で（自己の心の成長と共に）固有名詞をもつ神仏を信仰する宗教に帰依するというのが連盟の設定している道である。ここで主張したいことは、スカウト活動の中で固有名詞をもつ神仏に深く入り込むことは避けるべきということである。宗教章においてもあくまで勉強の範囲である。勿論、特定宗教派を基盤にしている団など保護者の了解を得られている団では全く問題ないのはいうまでもない。

以下信仰奨励章に限って話を進めたい。
信仰とは、「経験や知識を超えた存在を信頼し、自己をゆだねる自覚的な態度」（大辞林）
以降、この存在をサムシング・グレイトと呼ぶことで論議を進めていきたい。

サムシング・グレイトについて

村上和雄氏（S11年生まれ、筑波大学教授　遺伝子工学で世界をリードする著名な学者）が提唱。
遺伝子の研究の中でその驚くべき仕組みを知るにつけ、一体どのようにしてこのような仕組みが出来上がったのか？、だれが精緻で膨大な遺伝子情報を書きあげたのか？と言う疑問にぶつかった。氏の出した答えは何ものかが書いたというものである。書きあげたXをサムシング・グレイトとなづけた。（サムボディ・グレイトではないことに注意）　　私は　月刊誌「致知」で知った。

中村先達の【明確なる信仰をもつことを奨励する方法の研究（昭和42年）】（県連HPに掲載済み）によると、スカウトに信仰をもつよう奨励する方法として以下の三つの方法を挙げている。

第1の方法：家庭・学校・社会での教育を主とし、BSが応援する方法

第2の方法：宗教団体が行う教化活動にスカウトを「橋渡し」する方法

第3の方法：スカウティングのプログラムすべてを信仰への「接点」とする方法

中村先達は第3の方法であるべきといい、更にその為にBSプログラムが設定されていることにも気付いたとも言われている。“ちかいとおきて”から始まってモットー・スローガンそして奉仕、野営、ゲーム、歌、劇等など総てのプログラムの中で信仰との接点を考え、見出すことで、いかにそのプログラムが豊かなものになっていくかを、前記【・・・研究】の中で丁寧に述べておられます。

サムシング・グレイトを感じると言うことはどういうことか？私にとっては、自己中心的、自国中心的、人間中心的な考えから脱却すべし、他の存在を感じ、他への影響を想像するべしとの思いをもつことである。SFS38号での井上理事長の「共生について」も同様の内容であった。また、最近スカウトと共に参加した法話会で次の言葉を教えられた。

善いことでも　周りをよく見てやりなさい。

本当のことでも　相手のことを　考えて言いなさい

自己中心の、傲慢な人間が如何に世の中を悪くしてきたか。スカウティングの目的は自己中心と傲慢を否定できる青年を育成することである。信仰生活とは、サムシンググレイトに頭を垂れそのような生活をすることである。だからこそ、“スカウティングは信仰を強めるものでなくてはならない（BP）”のである。

サムシング・グレイトの存在を認めることで私たちの取り組みが非常に容易になる。何故なら今まで感じていた抵抗感が無くなってしまう。その理由は固有名詞の神仏から離れることと、私たちがスカウトを指導する目標とする”ちかいとおきて”はまさにサムシング・グレイトが要求するであろう徳目そのものであるから。

おきてとは、スカウトに要求する徳目（行動原理）である。今は8項目だが、かつては12項目であった。これらは全て既存の世界宗教の徳目とも重なるものである。このことは非常に重要なことである。いわゆる徳目とは、人の行動規範であり、人間相互の関係を規定するものである。これは誰が定めるのであろうか。その社会・地域・歴史により異なったものがあっても不思議はない。人食い人種の徳目だって有るのは当然である。我々はスカウト教に入信している訳ではない。（私個人は、日本的仏教に心惹かれている。）その立場でスカウトのおきてを見た時、自分の言葉でスカウトに指導出来るものなのか、もっと大切なものはないのかと思うことは自然なことであろう。その意味で、既存の世界宗教と神道の教えを勉強してみた時、スカウトのおきては、キリスト教の愛、日本大乗仏教の利他の心、神道の清らかな生活と過不足なく一致していることが分かる。

スカウティングを展開するにあたって、サムシンググレイトの存在を前提にすることが肝要であると提案したい。全ての指導者は特定の信仰をもたなくても良いが、人間を超えるものの存在を感じる事が出来る人であってほしい。それを自分の言葉で、自分の体験を交えて話すこと、行動で示すことが出来る人が指導者であってほしい。そのような指導者を目指すことができるのも、指導者冥利に尽きるということでもある。

サムシンググレイトに名を付ける事が出来る人は本当に幸せだと思う。しかし、そうでなくても、難しい論理（神学）はわからずとも、サムシンググレイトを感ずることができれば同じく幸せなのだと思う。明治に生を受けた方々の信仰生活は豊かであったと思う。スカウトにサムシンググレイトの存在を伝えることが私たちの使命だと思う。そのことを指導者の方々へお伝えできればと願っている。

SFS委員各位
10/14全体総会終了後に、この原稿を基に話し合いを行います。お目通しの上参加ください。
始めに杉山が要点を説明し、質疑応答の後、皆さまからのお考えを伺いたいと思います。
討議のテーマは、“**信仰奨励章取得活動を定着**させるにはどうすればよいか？”です。

現在黒川第一団は休団中です。布川氏は最後の団委員長としてご奉仕されました。黒川村は10年前中条町と合併し胎内市となりまし布川氏は最後の黒川村長として合併事業に参画され、公職から身を惹かれた現在も多忙な日々を送られています。氏のご趣味は油絵言うことですがなかなか時間が取れないご様子です。

浦島太郎の物語

（前団委員長）布川　陽一（黒川1）

遠い昔のことになりますが、1964年東京オリンピック開催される以前の私はドイツの皆さんに育てていただいておりました。

当時の日本は豊かではありませんでした、私はドイツ政府から後進国援助資金を支給いただいて、ドイツ学校で授業を受けました。

私のドイツ留学の時代を、世界のソニーの歩みと平行して記載してみます。私がドイツ留学した時代は、現在のソニーの会社を世界で誰一人として知る人がいない時代でした。

其の製品を世界に売り出したのが3名のソニー営業マン。彼らがドイツで繰り広げた命がけの営業が現在の「世界のソニー」に築き上げたのです。

私の物語というより、ソニー営業マン物語になるかも知れません。ただ、そのソニー営業マンと時を同じくして、また、同じドイツでそれぞれの目的に向って歩んでいたという事実がありました。

ソニーが始めて自社の開発した製品トランジスターラジオを海外売り出すために昭和35年にヨーロッパに3人の営業マンを派遣いたしました。私はその1年後ドイツに出向きますが、ソニーの営業マン3名は自社のトランジスターラジオの売り込みの為にヨーロッパ中を駆け回ったが一年かけても一台のトランジスターラジオも売れなかったと聞き及んでおりました。

ソニーの営業マンが、ドイツで苦悶している時に、私も同じドイツで日本の未来を夢見て留学目的に向って苦悶したドイツ生活を送っていたのですが、当時の日本製品は「安かろう、悪かろうの」レッテルが貼られていた。

「ドイツを制するものはヨーロッパを制する」と、ドイツに拠点を置いてのソニー製品のトランジスターラジオの営業活動を続けたが、ソニー商品は見向きもされなかったと聞き及んでおりました。

ソニー営業マンのことばを借りれば「ドイツでラジオを売ることは、北極で氷を売るようなもの、しかし、うまい氷なら必ず売れると信じて」と言うソニー営業マンの言葉が残っています。

当時、留学生も含めて世界で活躍している日本人は、私も含めて自分のためとか、会社のためという感覚よりも全てが「日の丸」を背負い日本のために行動をしておりました。

私もそうしたMASDE　IN　JAPANの誇りを携えドイツでの生活でした。此の話はどこまでも続きますので此の辺で打ち止めいたします。

原爆が広島、長崎に投下され70年が経過しました。

第二次世界大戦の終結を図るため、アメリカ大統領（ルースベルト），イギリス首相（チャーチル）、ソ連首相（スターリン）の米英ソの三者会談がポツダムが開かれ、ポツダム宣言として発せられました。

終戦70年を迎え、改めてポツダム会談を実感するためにポツダムに出かけて行って参りました・・・・・・・・・・・実態見聞。

1ケ月間ポツダム、社会主義国のチエコ、ブタベスト、ハンガリなどを一人歩いて戦争の傷跡に触れて来ました。

話は前後いたしますが、青年期のドイツ留学ではヨーロッパアルプスを見上げて過ごしましたが、アルプスに魅了されながらも当時は山に登るような余裕はなく、何時の日かヨーロッパアルプスに挑戦したい思いで帰国しておりました。

このことから、2005年に役場を退職して、直ぐにオーストリア・ドイツ・スイス・フランスと30日前後の日数をかけ一人それぞれの山々に挑戦して長年の思いを果たして来ました。

文章が長くなりますので、本日は此の辺で終わらせていただきます。